

青田知史町政報告

令和3年10月1日発行 第7号

令和3年第4回定例会と新しい旭川市政への期待

9月16日と17日の2日間の日程で、令和3年第4回定例会が開催されました。初日に9名の議員からの一般質問が行われました。また条例の制定及び一部改正、令和3年度各会計補正予算、令和2年度各会計決算の認定についてそれぞれ審議されました。

私の一般質問の登壇は3番目。今回は「45分2本勝負（時間制限方式で2問の質問）」で質問を構成し、1問目は千葉教育長に初めての質問を行いました。9月2日に北海道教育大学教職大学院旭川校特任教授の北村善春先生を講師に、テーマである「令和の日本型学校教育」に関して担当課職員と合同で研修も行き質問に備えました。2問目については、美瑛町のまちづくりにも関係する「連携中枢都市圏構想」について。令和元年9月の定例会で同じ広域連携の形態である「定住自立圏形成協定」についての質問以降、私はこの構想を町政の重要課題のひとつとして捉えていました。そして、知己のある旭川市の関係者や市議会議員に市の動向について折々に確認し、定例会の前には周辺町の議員とも情報交換をしながら一般質問に臨みました。

さて9月26日の旭川市長選挙では、自民、公明、維新、大地が推薦する44歳新人の今津寛介氏が圧勝し、新しい市長が誕生しました。15年続いた立憲民主系（旧民主系）の市長から親自民系の市長の誕生は、北海道第2の都市旭川にどのような変化をもたらすでしょうか。今津市長は私が一般質問に取り上げた連携中枢都市圏構想も公約に掲げています。周辺8町としっかり連携し、上川中部圏域の経済成長や課題解決のために、「ひと」や「企業」もつながっていきけるような政策を推進していくことでしょう。新しい旭川市政に期待をしています。



公式ホームページのご案内

私の町政報告と、日々の議会活動をお知らせするために、公式ホームページを作りました。この町政報告と合わせて町民の皆様と町政の情報を共有したいと考えています。またご意見や、ご質問などありましたら、どうぞお気軽に声をお寄せください。

町政に活力を！ まちづくりに希望を！

aota-tomofumi.com (公式ホームページ)

青田ともふみ公式

検索



QRコードでアクセス

第7号の内容

☆特集：一般質問を振り返る

◆ 2項目の質問とその答弁

◆ 連携中枢都市圏構想の展望

☆昼下がりのコラム

☆町政の理解を深めるキーワード

☆次号の予告

※この町政報告やホームページの内容は全て議員個人の見解、意見であり、美瑛町議会の見解、意見ではありません。

◆特集 一般質問を振り返る ① 2項目の質問とその答弁

定例会では次の2項目について質問しました。

1, 美瑛版「令和の日本型学校教育」の構築のために（質問の相手は教育長）

(1) ICTを活用した学びの現状と課題について (2) 障がいのある児童生徒の学びの充実について (3) 新しい担任制の導入とその意義について (4) いじめの発生状況と防止対策について (5) 不登校対策について ※質問の相手は教育長

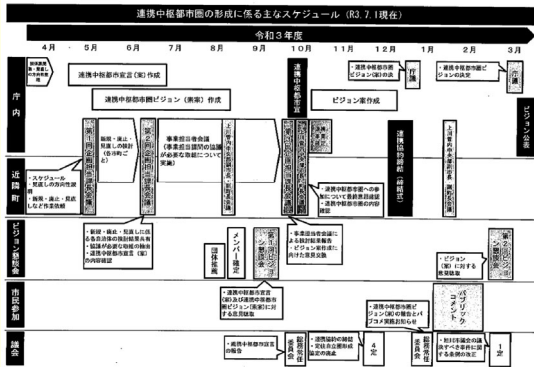
2, 連携中枢都市圏構想の現状と課題について（質問の相手は町長）

(1) 構想実現に向けての推進スケジュールと課題について (2) 町民の理解と意識醸成に向けた周知方法についてどう考えるか (3) 想定する取り組みと本町のメリットについて

答弁は次のように行われました。1の(1) ICTによる分かりやすい授業の実施に努めるとともに、より効果的な活用方法や家庭での端末の使い方などについて検討する。(2) 全ての子どもについて個々の特性、発達段階に応じて、きめ細かな教育の充実を図る。バリアフリーにも取り組んできたが今後も学びやすい環境づくりに努める。(3) 小学校高学年で教科担任制の導入が見込まれ、専門性を持った教員によるきめ細かな指導につながることを期待している。中学校では試行的に複数担任制を実施。生徒や保護者が相談しやすく、信頼関係の面からもメリットがある。(4) いじめの早期発見・早期解消に向けた取り組みを、家庭や関係機関と連携し、学校全体で行っている。また道徳の授業でも取り上げ、いじめのない安心で楽しい学校づくりを進めている。(5) 自己有用感を高める取り組みや、個々の状態を把握できる支援ツールも活用し、より良い人間関係づくりに努めている。保護者との教育相談を丁寧に行い、状況の改善に向けた取り組みと必要に応じて、スクールカウンセラー等による児童生徒や保護者をサポートする体制を整えている。再質問に対しては、今後の災害の際に町内にある7校は全て避難所の指定になっており、今後のバリアフリー化の推進については町長部局と協議する。コミュニティスクールをすすめながら学校、地域、家庭が連携し子どもたちの健やかな成長を目指していきたい。教育長からはこのような答弁がありました。

2の(1) 現在、事務レベルによる新たな取り組みの検討作業とあわせて、旭川市が中心となって連携中枢都市圏ビジョンの作成が進められている。**10月には旭川市が連携中枢都市宣言をし、各連携町の最終意思確認や（その後）議会の議決を経て、12月中に連携協約の締結、来年4月に連携中枢都市圏ビジョンの公表が行われる。**また、連携市町それぞれの主体性や独自性を尊重しながら、議論を深化させていく必要がある。(2) 連携市町の民間や地域関係者で構成する協議・懇談の場において、情報共有や具体的な取り組みの検討が進められているので、あわせて町民への効果的な周知方法について検討する。(3) 昨年度から連携を開始した「eスポーツ拠点事業」の活用など、生活関連機能サービスの維持・向上や雇用創出、交流人口の拡大に取り組みながら、本町の将来を見据えた広域連携の在り方について引き続き検討していく。連携市町の資源を有効に活用する観点からも、柔軟に取り組んでいきたいと考えている。これまでの定住自立圏の取り組みを更に拡充・発展することで、本町の特色をいかす中で圏域全体の活性化や魅力の向上につながるものと考えている。町長からはこのような答弁がありました。いずれにしても、**現在は事務レベル協議が進められている段階。**

② 連携中枢都市圏構想の課題 ～合意形成の必要性～



左の表は、旭川市から各町に配布されている構想実現のためのスケジュール表です。答弁にもあったように、10月には旭川市が連携中枢都市宣言を行い、各連携町の**最終意思確認**が行われます。以下私の再質問について列記します。①何を根拠に町長が最終的な意思表示をするのか？②**町民との情報共有や合意形成含めて時間的に厳しいのではないのか？**③美瑛町にとって財政的なメリットは無く、**具体的なビジョンも示されていない**中でこの構想に参加する理由は？④関係団体に考えを求める必要はないのか？⑤まちづくり委員会に諮ることも含めて、いつどのタイミングで情報を伝えるのか？と5つの再質問をしました。②が最重要だと私は認識しています。総務省が定める推進要綱の留意事項に、「**地域における合意形成の過程を重視することが必要**」で。特に、住民に対しては、あらかじめ、当該市町村のホームページを含めたインターネット等各種広報媒体や住民説明会等を通じて、「**当該連携協約案の趣旨及び具体的内容を周知**するものとする」とあります。美瑛町としてはまずこの要綱の趣旨を踏まえ、町民に対しての情報提供はもちろん、各種団体やまちづくり委員会に諮るなどして限られた期間の中で、町民の合意形成に努めるべきでしょう。また、町長には旭川市長とトップ同士の信頼関係に基づく自治体の互惠関係を構築するために、早期に意見交換をし美瑛町のまちづくりの方向性を理解してもらい、本来の主体的なまちづくりを担保しつつ、この構想のメリットを最大限享受できるような取り組みを期待しています。

昼下がりのコラム「カラス」

今年はカラスが多いとか。実は私もカラスになりました。カラスと言ってもコスプレとかではなく、選挙用語でいうカラスです。選挙カーに乗り込んで立候補者の名前を呼び掛ける女性のことは、【ウグイス】と言い、公職選挙法上は「車上等運動員」になります。【カラス】はウグイス嬢の男性版。黒や紺色のスーツを着ている人が多いことからそう呼ばれるようになったという説があります。私は赤のジャンパーを着て、旭川市内を巡りました。サンタクロースのようだとの感想も頂戴しましたが、「がんばるワカゾー！」こと林祐作北海道議会議員（無事候補がはずれました）の選挙カーで声を大に呼びかけ、時に運転もいたしました。新しいご縁も出来、貴重な学びの時間でもありました。しかし、私の呼び掛けにより長身でイケメンの候補が来たと、期待して集まったご婦人たちの目に映ったのが50過ぎの知らないオヤジ。少し？期待はずれだったかもしれません(笑)

林道議も「圏域の連携による政策推進が1丁目1番地」とかねてから話しています。旭川市議会から北海道議会へ。新天地でのご活躍を心から祈念しております。がんばれワカゾー!!



町政の理解を深めるキーワード「ICT（アイシーティー）」

ICT（アイシーティー）は「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指します。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称です。

9月2日に開催された美瑛町オンライン勉強会（講師 北村善春北海道教育大学教職大学院教授、元北海道立教育研究所所長、元北海道教育庁学校教育局長）でも、新時代における先端技術・教育ビッグデータを効果的に活用した学びの在り方として、○教師を支援するツールとしてのICT環境や先端技術が不可欠になることと、○ICT環境や先端技術の効果的活用により可能となる事柄について説明がされました。ICTにより①**学びにおける時間・距離などの制約を取り払うこと**※遠隔教育により、様々な状況の子どもたちの学習機会が確保されるなど ②**個別に最適で効果的な学びや支援** ③**可視化が難しかった学びの知見の共有やこれまでにない知見の生成** ④**学校における働き方改革の推進**などが可能になっていきます。このためにも国の政策として、GIGAスクール構想の実現を目指し、全国一律に1人1台情報端末と高速通信ネットワークを一体的に整備することになりました。



美瑛町オンライン勉強会の風景（9月2日）

今回のオンライン勉強会も、ICTを活用しています。大学と役場の会議室をインターネットでつなぎ行われましたが、町内の小学校でも同様な取り組みが進められているようです。議会のICT化も各地で進んでおり、9月16日には滋賀県の大津市議会で初のオンライン常任委員会が開催されたとの報道がありました。全委員がリモートで参加したこの委員会は、議会改革の一環として行われました。大災害や新型コロナウイルス感染拡大などの非常時でも議会機能を維持するために、委員会条例を改正。オンラインで委員会を開催できるようにしました。議場内にタブレット端末を導入し、議案書等のペーパーレス化を進めようとしている自治体もあるようです。柏市では積極的に電子自治体推進の取り組みを行っていることが知られていますが、議場に大きなスクリーンが設置され、そこに議員や執行部が質問や説明に使用する資料などが映し出されます。傍聴者にとっても審議内容が分かりやすく好評だそうです。

教育現場や議会、企業や家庭いたるところですごいスピードでICT化が進んでいます。便利な点、導入のメリットもありますが、使うのは人です。まずは、ほどよく便利さを享受しながら、ゆっくりと慣れていくことがICTの活用には必要な気がしています。

☆☆☆次号の予告☆☆☆

10月14日と15日の両日に令和2年度各会計の**決算審査特別委員会**が開催されます。さてこの決算審査ですが、昭和52年2月に全国町村議会議長会が決定した「町村議会の機能を高めるための方策」では、「決算審査はややもすれば執行済みのものと軽んじられる傾向にあるが、**適正に執行されたか審査**するとともに、資料に基づき行政効果を測定し住民に代わってその**効果を評価**する極めて重要な意味があることを再認識すべきである。またその結果は後年度の予算編成や行政執行に活かされるよう努力すべきである」と示されています。その重要な意義を理解したうえで、しっかりと決算審査特別委員会に臨みたいと考えています。次号はこの決算審査特別委員会の審議内容を中心にお届けいたします。町政に関してご意見やご質問などありましたら、お気軽に青田まで声をお寄せください。今後ともよろしく願いいたします。